



1 輪になってインタビュー。2 まずは自己紹介から。3 教科書を使って日本語を勉強します。4 日本語講師の川崎雄輝さん。5 だんべえ踊りで前橋の文化を体験。

**日本語は難しい！
言葉の壁を越えるために**

実際に日本語を教える講師の川崎雄輝さんに話を伺うと、「教える方には工夫が必要。書き言葉の文法で話すのがポイントです」と話していました。私たちも学生たちが分かりやすいよう易しい言葉を使ってインタビューしましたが、普段何気なく使っている言葉はなかなか伝わらない場面も。そんなときは、具体例を出すなどの工夫が必要だと学びました。

まだまだ日本語を学習中の彼らですが、私たちの話を一生懸命聞

いてくれ、「大学ではどんなことをしているの」などと逆に質問をしてくれたり、冗談を言って笑わせてくれたりしました。言葉が上手く通じなくても表情やジェスチャーなどを使いながら楽しく会話ができました。

**前橋に暮らす外国人と
これからも交流を**

彼らのほとんどは授業を終えた後にアルバイトをしています。工場や弁当を作ったり寿司屋で働いたりしているそう。アルバイトをしている点は、日本の学生と同じですね。また、去年は前橋まつり

のだんべえ踊りに参加。課外活動にも積極的に参加し、日本人と交流したいという思いを持った学生が多いそうです。

そんな彼らは日本だけでなく母国も好きだということインタビューする中で感じました。母国を離れて一人で日本に来るといのはとても勇気のいること。それでも目標に向かって頑張る彼らの姿を見て、私たちが刺激を受けました。彼らが前橋で安心して生活できるように、国籍を超えた交流の場を作っていきたいですね。



2クラスを取材。最後には記念撮影。

編集後記



最後には一緒に写真を撮ってとってくれてうれしかったです。彼らのこれからが楽しみ。

(小内)

外国人の友達がいたら新しい価値観を持ってそう。多文化共生が当たり前になる日も近いのでは。

(高橋)

学生の皆さんが、日本語は難しいと言いつつも一生懸命話を聞いてくれてうれしかったです。

(安済)

外国人から見た日本語や日本を知り、外国人の考え方に触れることができました。

(松永)



留学生に聞いてみた！
あなた
YOUはどうしてこの学校へ？

市民が作る
市民編集
のページ
Vol.127

Instagram



SNSも見てください！

フェイスブック



外を歩いている時、黄色いプレートが付いた自転車に乗った外国人を見かけたことはありませんか。彼らはNIPPON ACADEMYに通う留学生です。記念すべき初取材の舞台はこのNIPPON ACADEMY。前橋で暮らす外国人はどんな生活をしているのか、学生たちにインタビューしました。



担当 安済茜・小内香生流・高橋梨華・松永農人

☎ 市政発信課 ☎027-898-6642

**目標に向かって
日本語や文化を勉強中**

市内には複数の外国人学校があります。今回の取材先、NIPPON ACADEMYは日本語教育や就業支援などを行う学校。4つあるキャンパスのうち、日本語教育を行っている表町一丁目の「へいわ学院」にお邪魔しました。

インタビューしたのはインドネシアやベトナム、ネパール、ハイチ出身の学生たちです。なぜ日本で勉強しているのかと聞くと、日本で働くため、日本の大学に進学するため、日本の生活を体験したいからなど、その理由は多種多様。母国の高等学校を卒業してこの学校にきている人もいれば、既に職に就いている人もいて、それぞれが目標や目的を持って日々の勉強に取り組んでいます。



初めての取材にドキドキ。少し緊張の面持ちです。